

- ・表紙「夏休みフィールドチャレンジ教室」 p.1
- ・安曇野を知る1枚「押野城跡」 p.1
- ・公民館講座
(豊科・穂高・三郷・堀金・明科) p.2,3

- ・オンライン講座 p.2
- ・地区公民館だより「古厩地区」 p.4
- ・私は一生懸命「吉田和子さん」 p.4
- ・グループ紹介「アップル健康体操クラブ」 p.4



親子ふれあい塾 夏休みフィールド チャレンジ教室

豊科公民館は、7月30日、夏休みフィールドチャレンジ教室を開催した。参加した小学生10人と保護者8人は、最初に烏川渓谷緑地内の川に入り、網とボウルで水生生物を捕り、顕微鏡でプラナリアなどを観察した。その後、ヤマウルシなどの植物を観察したり、クワガタを探したりしながら、徒歩であづみの公園に移動した。午後は、公園内の松の花やヤドリギなどの樹木について説明を聞き、楽しい1日を過ごした。

地区公民館だより 古厩地区公民館（穂高）

古厩地区は、市の北端に位置し、松川村や市最北端の笠足地区に隣接する位置にある。菅城地区、北矢村地区を含めた広さは、旧有明村の中でも広い面積を持った地域である。古くは、地区の名前の由来となった古厩氏の居城が、現在の古厩本郷交差点付近にあったことが知られている。

古厩地区公民館では、例年「趣味の講座」や「納涼祭」「敬老会」「餅つき大会」など住民の交流を主とした活動を行っているが、昨年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から、ほとんどの行事が中止となり、活動が十分にできない状況だった。そんな中、女性部はコロナ禍で運動不足になりがちのため人数を制限して、運動と脳トレを組み合わせた「頭と体のリフレッシュ体操講座」を行った。研修部の「人権講習会」、厚生部の「高齢者の生きがいと健康づくり」も行うことが出来た。人権講習会では、市の出前講座を利用して、高齢者をターゲットにした詐欺防止の啓発活動を行った。

例大祭でも、御船の造営は中止されたが「祭典に御船がないのは寂しいので、公民館で屋台の展示をしてほしい」との依頼を受け、文化部が屋台の展示を行い祭典に花を添えることができた。

今年度も、昨年と同様、従来の活動が出来ない状況が続いているがこれからも区民のふれあいや親睦が深まる活動を行っていききたい。

(古厩地区公民館長 島山順和)



頭と体のリフレッシュ体操講座

私は一生懸命 吉田和子さん(堀金)

吉田さんが堀金常念太鼓を始めて30年余りになる。常念太鼓保存会は、昭和63(1988)年に発足した。平成17(2005)年に吉田さんが代表に就き、子どものグループ「童」、子育て中のお母さん中心の女性グループ「女雅美」を立ち上げ、「保存会」と合わせて3グループが堀金常念太鼓として稽古を重ねている。

吉田さんは、週4日、3グループのすべての練習に立ち会い、指導する。堀金地域文化祭の芸能発表会(芸能祭)に参加したり、堀金社会福祉協議会主催の福祉まつりに招待されたりして演舞している。イベント参加だけでなくコンサート「どんと来」を開催し、自分たちの思いを込めた演奏会をしている。

市太鼓連、堀金芸術文化協会、常念フェスティバルの副会長にも就任している。太鼓の他に篠笛を吹き、尺八を勉強中と和楽器に親しむ日常だ。後継者の育成が悩みというが、太鼓に対する情熱はとどまるところを知らない。



グループ紹介 アップル健康体操クラブ

健康維持と会員相互の親睦を目的に、三郷公民館の講座から発足したクラブが、平成19(2007)年、新たに「アップル健康体操クラブ」として発足した。部員は60代から80代までの64人で、家事や畑仕事、介護などの日々忙しい中であっても、週1回、水曜の午後、約1時間の教室を楽しみに毎回50人が参加している。

運動メニューは、体操だけでなく、脳トレや筋トレも取り入れた週毎に違うメニューなので、楽しく飽きずに無理なく続けられる。指導を行う健康運動実践指導者・佐藤貴子さんの健康アドバイスが知識となり、健康への意識がより高まり、日々の暮らしにクラブの運動を取り入れている人も多い。

クラブ開始前の早い時間から集まり、雑談をし、互いを気遣いあい、情報交換をする部員同士の交流も大きな楽しみとなっている。降旗妙子会長は誰にでもいづれは訪れる体の老化に「向き合って！受け入れて！あきらめない！でも、無理せず！一番大事なのは楽しく体操すること」と話す。 問い合わせ 三郷公民館 (77-2109)



安曇野を知る1枚 押野城跡(明科押野)

「槍で別れた梓と高瀬めぐり逢うのが 押野崎」と安曇節に歌われる押野崎。この合流地点の北側に位置する山塊が押野山だ。押野山の東側、標高613～623mの小山に押野城跡がある。信府統記に「城主知レズ」とある押野城は、20～30年前までは高田城とも呼ばれ、江戸時代より高田同姓4軒で守られ、今に至る。



編集後記

◆今年のお盆休みは、秋雨前線の影響で大雨にたたられ、テレビの気象情報にくぎ付けだった。温暖化の影響か、一度に大雨が降る。日頃から防災マップの確認をして、災害に備えたい。(H・N)

◆度重なる自然災害・コロナウイルスの爆発的感染の中で開催されたオリ・パラだが、選手の健闘ぶりに励まされた人も多かったと思う。どのような形であれ人を支え、励ますことのできる人間でありたい。(M・Y)

【公民館講座】

みさと

「目指せ！けん玉名人」

三郷公民館では、5月から毎月1回、全8回でけん玉教室を開催している。

懐かしさに孫と参加した男性や、子ども用の小さなけん玉を持つ5歳児、実力をあげたいと自宅でも練習を続ける小学生など、幅広い年齢層の20人が参加している。なかなか技が決まらず投げ出してしまいそうになる子を見守り、励ましながら一緒に練習をする保護者もいる。



けん玉のコツコツという音が響く中、参加者は「難しい技ができるとうれしい」「たくさん練習をして級をあげたい」などと話しながら熱心に練習に励んでいた。

ほりがね

「4種の講座と学習会」

堀金公民館は、7月30日、8月2・4日に「子ども公民館」を開催した。日本けん玉協会安曇野支部長・高山万寿さんのけん玉講座、堀金中学校教諭・本郷大輔さんの将棋講座、堀金公民館長・山田賢一さんの折り紙講座、市社会教育指導員・内田伸二さんの柔道講座の4講座に市内の小学生31人が参加した。

午前9時から10時30分までは希望の講座に参加し、その後の1時間は学年別に学習に取り組んだ。

折り紙が好きで折り紙講座に参加した田村笑莉さんと原佑葉さん（共に堀金小3年）は「珍しい折り方を教わったので家でも折ってみたい」と喜んでた。

子ども公民館

堀金公民館は、子どもたちの居場所づくりのひとつとして「子ども公民館」を開催して今年で4年目だ。



子ども公民館が、夏休み中の子どもたちにとって、普段の暮らしの中では得難い機会となり、講座や学習に参加することで、他地域の子ともふれあい、成長していく体験活動の場となるよう願っている。

あかしな

明科の宝 PART VI 「明科の里山整備」

明科公民館は、7月28日に明科生活環境講座を開催し、明科の里山の状況や環境整備について、市耕地林務課の佐藤課長から話を聞いた。参加者は33人で、約8割が各地区の里山整備実施委員会の関係者だった。

最初に松枯れの仕組みをおさらいし、被害の現状と更新伐の取組みと実施状況、更新伐後の里山の再生状況と活動の紹介があった。「更新伐事業を円滑に進めるためには地権者と行政及び地区が協力する事が必要で、特に里山の管理を地区で継続して行っていないと里山の再生も進まない。そのためには伐採した木を活用して利益を生み、還元する仕組みも大切である」との説明があった。

更新伐

更新伐とは、現在の森林とは違う森林（樹種など）へ転換する森林整備の方法である。伐採後の転換方法には、自然に落ちた種子や樹木の根株からの発芽を待つ自然の推移に委ねる方法と植林などの人為的な方法がある。明科では、松枯れの被害木を含めたアカマツを7割以上伐採し、一部の健全な木を残しながら、広葉樹林などの樹種に転換させている。



オオルリシジミ

オオルリシジミは瑠璃色の羽を持つ大型のシジミチョウで、長野県の3か所と九州の阿蘇地方にしか生息していない希少なチョウである。オオルリシジミの幼虫はマメ科のクララの花つぼみしか食べない上に、圃場整備などに伴いクララの自生地が無くなったため絶滅の危惧にひんしたが、25年にわたる保護増殖活動により徐々に自然発生するようになった。

オオルリシジミのためクララを植え増やす活動は、安曇野の自然を守る活動につながっている。



とよしな

「虫たちからのメッセージ」 ～安曇野の自然～

豊科公民館は、7月13日に「出合い・ふれあい・生きがいセミナー」を開催した。

講師は三郷昆虫クラブ世話人の那須野雅好さん。子どもの頃から虫を追いかけてきた那須野さんは、昆虫クラブの活動を行う中で出会った4人の業績を知ること、安曇野の自然を守りつなぐうえで大切だと語った。その4人とは、写真家で昆虫学者の田淵行男氏、歴史家・小穴喜一氏、とんぼ研究家・曾根原今人氏、生物学者・千國安之輔氏である。32人の参加者は熱心に耳を傾けていた。



ほたか

「弥次さん喜多さん安曇野の旅 ～満願寺編～」

穂高公民館は、6月5日に穂高会館で『穂高の宝』学習会を開催した。4月に刊行された『穂高の宝』は文化庁の補助金事業として「安曇野市の歴史文化遺産再発見事業実行委員会」により穂高地域の歴史や自然、民俗などを分かりやすくまとめたものだ。

講師は、編集に携わった市文化課職員の逸見大悟さんで、江戸時代のベストセラー『東海道中膝栗毛』の著者・十返舎一九が『続膝栗毛』の取材のため満願寺を訪れた時の様子や、該当場面の弥次さん喜多さんの珍道中を紹介し、受講者55人は熱心に聴いていた。



オンライン講座

生涯学習活動と新型コロナウイルス感染拡大防止対策の両立を図るため、オンラインを活用した各種講座を企画し、各地域公民館で取り組みを始めました。今後はweb会議システムを活用した講座の実施や講座をYouTubeへ動画配信する予定です。ぜひ体験してみてください。

「明南小・明北小音楽会オンラインライブ」

明科公民館では、6月18日に明南小学校、25日に明北小学校の音楽会の様子を公民館講堂で動画配信し、視聴会を行った。両校では、コロナ禍のため昨年度から学校行事に地域の方を招かず、子どもたちの成長した姿を見ていただけない状況が続いている。

ライブを見に来た方は、音楽に合わせて足でリズムをとったり、演奏が終わるたびに拍手をしたり、音楽会会場にいるような雰囲気で見入っていた。今回は一方向による配信だったが、会場と公民館双方向で映像・音声を繋ぐことができれば、子どもたちにも観客の応援が届き、より楽しめると思われるので今後の課題としている。

